

板橋区児童福祉審議会第1回本委員会 会議概要及び議事要旨

会 議 名	令和6年度板橋区児童福祉審議会 第1回本委員会
開 催 日 時	令和6年7月11日（木） 午後2時15分から午後4時00分まで ※審議会開催前に、板橋区児童福祉審議会委員委嘱状交付式を実施
開 催 場 所	板橋区役所本庁舎北館11階第1委員会室
出 席 者	〔委員〕 稲垣美加子 栗原直樹 小林美由紀 坂井隆之 平戸ルリ子 堀科 松原康雄 森和子 花崎みさを 税所純敬 神山八弓 安藤建治 佐賀豪 馬場望 根本えりか 茂呂大輔 〔区側出席者〕 子ども家庭部長 子ども家庭総合支援センター所長 保育運営課長 支援課長 保護課長 法務担当課長 保護課保護係長 〔事務局〕 子ども政策課長 児童養護推進係長、副係長、担当
会議の公開（傍聴）	<u>公開（傍聴できる）</u> 部分公開（部分傍聴できる） 非公開（傍聴できない）
傍 聴 者 数	0人
議 題	<p><開会></p> <p>1 委員紹介</p> <p>2 議事</p> <p>（1）委員長及び副委員長の選任について</p> <p>（2）部会の設置及び部会長の任命について</p> <p>3 諮問</p> <p>板橋区社会的養育推進計画の策定について</p> <p>4 報告</p> <p>（1）児童福祉審議会への子ども本人からの申立てについて</p> <p>（2）令和6年6月における部会の開催状況について</p> <p>（3）令和5年度板橋区子ども家庭総合支援センターの運営状況について</p> <p>5 その他</p> <p><閉会></p>
配 布 資 料	<p>資料1 板橋区児童福祉審議会委員名簿（第2期）</p> <p>資料2 部会の設置について</p> <p>資料3 第2期板橋区児童福祉審議会部会名簿（案）</p> <p>資料4 諮問書（板橋区社会的養育推進計画の策定について）</p> <p>資料5 児童福祉審議会への子ども本人からの申立てについて</p> <p>資料6 令和6年度里親部会の開催状況について</p> <p>資料7 令和6年度子どもの権利擁護部会の開催状況について</p> <p>資料8 令和5年度保育部会の開催状況について</p> <p>資料9 令和5年度板橋区子ども家庭総合支援センターの運営状況について</p> <p>参考資料1 板橋区児童福祉審議会 区関係部課長及び事務局名簿</p> <p>参考資料2 東京都板橋区児童福祉審議会条例</p> <p>参考資料3 東京都板橋区児童福祉審議会条例施行規則</p> <p>参考資料4 東京都板橋区児童福祉審議会部会設置要綱</p> <p>机上配付資料 板橋区一時保護所の運営について</p>
所 管 課	子ども家庭部 子ども政策課 児童養護推進係 （電話3579—2454）

会議概要

子ども政策課長	<p>それでは、令和6年度板橋区児童福祉審議会第1回本委員会を開催させていただきます。本日は、第1回本委員会のため、委員長が選任されるまでの間は、私の方で司会を務めさせていただきます。</p> <p>まず、開会に先立ちまして、4点連絡事項がございます。1点目でございますが、本委員会の委員数は16名でございます。お一人遅れての出席となりますが、16名全員のご出席となりますので、定足数に達していることをご報告させていただきます。2点目でございますが、本委員会は公開となっております。なお、本日の傍聴希望者は0名となっております。また、議事録作成のため、録音させていただきますので、ご承知おきいただければと思います。議事録につきましては、発言者氏名及び非公開事項が含まれる内容を除いて、委員の皆様にご確認いただいた後に、会議資料とあわせて区ホームページにて公開させていただきます。3点目でございますが、発言をされる際は、事務局職員からマイクをお渡しいたしますので、マイクを使用して発言いただきますようお願いいたします。最後、4点目でございますが、本日の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>(資料確認)</p> <p>お手元の資料で不足しているものはございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、次第に沿って進めてまいります。先程、区長から委嘱状の交付がございましたが、ここで改めて、委員の皆様から一言ずつ自己紹介をいただきたいと思っております。資料1の委員名簿の順番にお願いしたいと思っております。最初に稲垣委員からお願いできますでしょうか。</p> <p>(委員自己紹介)</p> <p>委員の皆様、ありがとうございます。</p> <p>続きまして、本日出席している区側関係者を紹介させていただきます。参考資料1をご覧ください。</p> <p>(区側の出席者紹介)</p> <p>以上の委員の皆様及び区関係者で、板橋区児童福祉審議会を実施してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、次第の2(1)「委員長及び副委員長の選任について」に移らせていただきます。</p> <p>まず、参考資料2「板橋区児童福祉審議会条例」をご覧ください。本条例第4条におきまして、「審議会に委員長及び副委員長各1人を置き、それぞれ委員の互選によりこれを定める」とされております。委員長及び副委員長を委員の皆様の中から選出していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。もしよろしければ、事務局の方で案をご用意させていただいておりますが、そちらをご検討いただくということでよろしいでしょうか。</p> <p>(委員 異議なし)</p> <p>ありがとうございます。それでは、事務局案といたしましては、これまでのご経験やご実績、また、前期も委員長としてご尽力いただきました、松原委員に引き続き委員長をお引き受けいただけたらと考えてございます。また、副委員長につきましては、児童福祉の分野でのご経験が豊富で、前期も副委員長としてご尽力いただきました、栗原委員に副委員長をお引き受けいただけたらと考えておりますが、皆様いかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>(委員 異議なし)</p> <p>ありがとうございます。松原委員はいかがでしょう。</p>
松原委員	お受けいたします。
子ども政策課長	ありがとうございます。栗原委員はいかがでしょう。
栗原委員	お受けいたします。

子ども政策課長	<p>ありがとうございます。それでは、委員長には松原委員を、副委員長には栗原委員を選任することについて、ご了承いただいたということでよろしいでしょうか。</p> <p>(委員 異議なし)</p> <p>ありがとうございます。それでは、委員長に松原委員、副委員長に栗原委員が選任されましたので、お手数ですがけれども、前方の席にお移りいただければと思います。</p> <p>(委員長、副委員長席に移動)</p> <p>あらためまして、松原委員長、栗原副委員長より、ご挨拶いただきます。</p> <p>(委員長、副委員長挨拶)</p> <p>ありがとうございました。それでは、ここからの議事進行につきましては、松原委員長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>それでは、次第に沿って、議事を進めさせていただきます。続きまして、次第の2 (2)「部会の設置及び部会長の任命について」です。事務局から説明をお願いいたします。</p>
子ども政策課長	<p>それでは、参考資料4「板橋区児童福祉審議会部会設置要綱」をご覧ください。第2条におきまして、板橋区児童福祉審議会につきましては、常設の部会として、里親部会、子どもの権利擁護部会、死亡・重大事例等検証部会、保育部会の4つの部会を設置しております。</p> <p>各部会の所掌事項につきましては、資料2「部会の設置について」にまとめさせていただきましたので、こちらをご覧ください。項番1、里親部会の主な所掌事項は、里親の認定の適否や里親の登録の更新等について、諮問を受けて答申することとなっております。項番2、子どもの権利擁護部会の主な所掌事項は、施設入所など児童相談所の措置が児童や保護者の意向と一致しない事例、子ども家庭総合支援センター所長が必要と認める事例について、諮問を受けて答申することとなっております。また、今年度より、措置等に対する子ども本人からの申立てについて調査審議し、意見を述べる事が追加されております。項番3、死亡・重大事例等検証部会の主な所掌事項は、区から報告を受けた児童虐待事例や保育施設等での重大事故等について、事実関係の把握を行い、発生原因の分析を行うとともに、再発防止のための調査研究及び検証を行うこととなっております。項番4、保育部会の主な所掌事項は、保育所及び幼保連携型認定こども園の設置認可、家庭的保育事業等の認可について、諮問を受けて答申することとなっております。</p> <p>続きまして、参考資料3「東京都板橋区児童福祉審議会条例施行規則」をご覧ください。第4条第1項のとおり、「部会は、委員長が指名する委員及び臨時の委員をもって組織する」としてあります。また、第4条第2項では、「部会に部会長を置き、部会に属する委員の互選により、これを定める」となっております。私からの説明終了後、委員長から、部会に属すべき委員を指名していただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。説明については、以上でございます。</p>
委員長	<p>それでは、資料3「第2期板橋区児童福祉審議会部会名簿(案)」をご覧ください。私からこれに沿って提案をさせていただきます。よろしいでしょうか。</p> <p>(委員 異議なし)</p> <p>ありがとうございます。それでは、案のとおり決定いたします。里親部会の部会長は、坂井隆之委員、子どもの権利擁護部会の部会長は、栗原直樹委員、死亡・重大事例等検証部会の部会長は、私、保育部会の部会長は、堀科委員にお願いしたいと思います。また、各部会の委員構成につきましては、資料3のとおりでお願いしたいと思います。この点において、何かご質問・ご意見等がありますでしょうか。</p> <p>(委員 異議なし)</p> <p>それでは、部会長は部会の取りまとめをよろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、次第の3「諮問(板橋区社会的養育推進計画の策定について)」に移らせていただきます。事務局から説明をお願いいたします。</p>

<p>子ども政策課長</p>	<p>それでは、本日は、区長に代わりまして、子ども家庭部長より、松原委員長に諮問をさせていただきます。委員の皆様の上に、資料4として諮問書の写しを配付しておりますので、ご確認いただければと思います。子ども家庭部長は、前方の委員長席までご移動をお願いいたします。それでは、子ども家庭部長から諮問書の読み上げと手渡しの方をお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">(諮問書朗読)</p> <p>ありがとうございました。どうぞご着席ください。</p> <p>それでは、諮問が終わりましたので、私の方から板橋区社会的養育推進計画の策定方針について、ご説明させていただきたいと思います。恐れ入りますが、資料4の別紙1をご覧ください。項番1「策定の背景・趣旨」になります。平成28年改正児童福祉法の理念のもと、都道府県等においては、令和2年から11年度における計画を策定して、取組を推進しているところでございます。一方で、先程の諮問にもありましたが、令和4年6月の児童福祉法改正によって、令和6年度末までに新たな計画の策定を行うことが国の技術的助言によって求められております。従いまして、板橋区ではこれまで、令和2年3月に策定をされた「東京都社会的養育推進計画」を踏まえ、必要な施策・事務事業を実施してきたところでありますが、令和4年7月に児童相談所設置市になったことから、今般、新たに板橋区の社会的養育推進計画を策定する方針を決定し、同時に改定が進む東京都の同計画と整合を図りながら、取組を進めていきたいと考えているところでございます。別紙2として、A4横の資料「子ども・子育て支援事業計画（第3期）」等の策定方針について」を付けておりますので、そちらも後程ご確認いただければと思います。</p> <p>それでは、別紙1に戻りまして、項番2「計画の位置づけ・期間」でございます。計画期間は、令和7年度から11年度までの5年間となっており、こちらは国の通知により指定されているものでございます。</p> <p>裏面をご覧ください。項番3「策定の進め方」でございます。別紙2の策定方針に基づきまして、専門的かつ広範的な見地から検討する必要があることから、児童福祉審議会に諮問させていただいて、同審議会に臨時の部会「社会的養育推進計画策定検討部会」を設置いたしました。部会におきましては、次の計画策定項目ということで、下に表がございしますが、こちらについて検討し、その結果を審議会へ報告し、区へ答申をしていく流れで進めさせていただければと思っております。この計画策定項目ですが、こちらは、国の「都道府県社会的養育推進計画の策定要領」がございまして、それに沿って検討していくものでございます。また、臨時部会の委員でございますが、副委員長の栗原委員を部会長として、松原委員長にもオブザーバーとしてご参加いただきながら、記載の全9名で構成させていただきました。その中に、臨時の委員といたしまして、一般社団法人子どもの声からはじめよう代表理事の川瀬信一さん、板橋区民生・児童委員協議会主任児童委員から島田靖久さんと中道精司さん、児童養護施設西台こども館園長の西松雄介さん、この4名に臨時委員として委嘱させていただいたところでございます。</p> <p>3ページ目、項番4「計画策定スケジュール」をご覧ください。本日11日に諮問をさせていただきましたが、スケジュールの都合上、先になってしまいましたが、7月1日に第1回部会を開催させていただきました。第2回部会を7月29日に予定してございまして、8月から9月に当事者ヒアリング、アンケート調査を実施となっており、その詳細は第2回部会で検討させていただければと思っております。その後、第3回から6回までは記載のとおりでございまして、1月の本委員会において答申をいただければというスケジュールでございます。簡単ではございますが、説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>委員長</p>	<p>この計画策定は、重い課題になっております。この臨時部会においても、たくさんの議論をしていただきますが、児童福祉審議会全体としても色々なご意見を伺いたいと思いますので、よろしくご協力いただきたいと思います。議論をはじめるにあたって、こういう点に留意をして議論をしていただきたいと思いますというご意見があれば伺っておきますが、いかがでしょうか。パーマネンシーといっても、それを巡っての</p>

	<p>議論があるかと思ひますし、概念を上手くすり合わせていかないと、実際の施策が効果あるものにならないかと思ひます。設置していただいた部会で議論の方を進めていただき、我々の方にも議論の余地を残していただくことにしましょうか。</p> <p>(委員 異議なし)</p> <p>難しいのは、東京都との整合性を取らなければいけないということですが、板橋区独自の課題もあるかと思ひますので、そこをどういう風にピックアップして、位置付けられるかが課題になりますね。議論をしていくと、どうしても児童福祉法や国全体の施策のありようがあつて、仮に東京都の方針が出て、国と違っていると上手くいかないこともあるので、議論する上で、よく整理をする必要があるかと思ひます。</p>
子ども政策課長	<p>ありがとうございます。委員長からお話がありましたように、東京23区のうち、児童相談所を設置している区が8区ございます。各区が横の連携を持って、また、東京都とも調整する場を持つことになっております。まだ、設置はされておられません、近く持つ予定ですので、委員長がおっしゃられたようなところについて、十分留意して整理していきたいと思っております。また、部会の方にも、適宜報告させていただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>それでは、そういう形でご協力いただきたいと思ひます。続きまして、次第の4「報告事項」に移らせていただきます。まず、報告事項(1)「児童福祉審議会への子ども本人からの申立てについて」です。事務局から説明をお願いいたします。</p>
子ども政策課長	<p>それでは、資料5「児童福祉審議会からの子ども本人からの申立てについて」をご覧ください。まず、この件についてですが、3月の児童福祉審議会本委員会におきまして、子ども本人が児童相談所の措置内容に不服等がある場合に、子どもからの申立てに応じて、児童福祉審議会が関係機関や子どもへの必要な調査を行った上で審議し、関係機関に対して意見具申等を行うとして、子どもの権利擁護部会の所掌事項に「措置等に対する子ども本人からの申立てについて調査審議し、意見を述べること。」を追加させていただきました。その際、4月から始まる制度ということで、早急にルール等を作成していくべきとのご意見を頂戴いたしまして、板橋区としても、子ども本人による児童福祉審議会への申立て制度の仕組みの検討を進めていたところですが、3月下旬に東京都より児童部会等において各施設に対して、東京都児童福祉審議会への申立てに制度に関する説明がなされ、実施にあたってのリーフレット等が配布されました。東京都は、都立児相が関わる子どもを対象として、各施設に説明を行っていますが、板橋区として新たにフロー図等を作成して各施設に周知するとなると、施設も混乱するのではないかと考え、板橋区としましては、東京都の制度にならって実施する方が現時点では良いのではないかと思ひ、資料5にまとめさせていただき、5月の子どもの権利擁護部会にお諮りさせていただき、ご了承いただいたところでございます。</p> <p>まず、項番1「制度概要」でございます。「申立てまでの原則的な流れ」につきましては、事前に事務局である子ども政策課及び子どもの権利擁護調査員が措置内容を調査し、子どもと関係機関の意見を調整いたします。その上で、子どもからの合意が得られない場合に、本審議会に申し立てを行う流れとしております。なお、子どもの権利擁護調査員ですが、弁護士、社会福祉士、精神保健福祉士又は公認心理師のいずれかの資格を有する者としており、現在、板橋法曹会に所属する弁護士1名と東京社会福祉士会に所属する社会福祉士1名の2名体制となっております。「申立て審議体制」につきましては、例月の子どもの権利擁護部会で審議することを考えております。「申立て制度の対象」及び「申立ての対象となる子どもの範囲」につきましては、記載のとおりでございます。なお、措置等されなかった子どもや措置等解除された子どもも対象としております。</p> <p>続きまして、2ページをご覧ください。こちらは具体的な手続きを記載しておりますので、要点のみをご説明させていただきます。「①子ども政策課(事務局)による</p>

	<p>調査・調整」ですが、子どもから申立ての意向があれば、子ども本人に申立書を作成していただきますが、補足事項に記載のとおり、代筆も可能としたいと考えております。また、子ども本人が希望すれば、意見表明等支援員（子どもアドボケイト）がヒアリングへの同席及び代弁も可能としたいと考えております。なお、このアドボケイトの要件は、「アドボカシー（子どもの意見表明支援）に必要な知識及び経験を有すること」「こども家庭庁が作成する「意見表明等支援員養成のためのガイドライン」に定める研修カリキュラム（例）に準ずる研修を受講した者であること」等としており、現在、「一般社団法人子どもの声からはじめよう」へ業務委託しているところでございます。「②児童福祉審議会における審議」ですが、本審議会が必要と認めれば、子ども本人や関係機関が出席し、意見を述べることも可能としたいと考えております。また、子ども本人が希望すれば、アドボケイトが同席し、子どもの意見を代弁することも可能としたいと考えております。審議内容につきましては、子どもの申立て内容に対する考えを報告書として取りまとめ、それを踏まえて関係機関に対し、子どもの意見表明権の保障や子どもの利益に資する対応、再検討の視点等について、児童福祉法第8条第4項に基づき意見具申を行います。「③審議結果の報告」ですが、子ども本人に対しては、「報告書」をもって、事務局と子どもの権利擁護調査員が直接フィードバックすることを検討しております。また、関係機関に対しては、「意見書」を事務局から送付し、関係機関は「意見書」を受けての対応等を「結果報告書」に取りまとめ、概ね3か月以内に事務局に提出いただくことを検討しております。</p> <p>続きまして、3ページをご覧ください。先程ご説明した内容をフロー図にしたものでございます。基本的にはこの流れに沿って進めていきたいと考えております。なお、子どもへの申立て制度への周知方法ですが、東京都が作成したリーフレットを参考に、相談先を板橋区に変更して配付することを検討しております。長くなりましたが、説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。それでは、ご意見、ご質問をいただきたいと思いますが、非常に今の状況は複雑ですね。例えば、板橋区内の児童福祉施設で生活している子どもが意見を言いたいと言った場合に、その子どもが東京市部の児童相談所から措置されていると、悩ましいことがいくつか起こりますし、逆の場合も、板橋区が子どもの声を聴きに行くといっても、東京都外の施設もありますよね。実際に子どもの意見表明が活発化すればするほど、活動が忙しくなりますよね。</p>
委員	<p>3ページ目のフロー図で、審議会にお子さんが出席して意見を述べるとありますが、権利擁護部会は月定例ですが、子どもと日程調整をして、お子さんの日程に合わせて、別日に部会を開くということを想定されているのでしょうか。</p>
子ども政策課長	<p>権利擁護部会は、毎月予定されておりますが、委員がおっしゃられたように、ご都合が合わない場合には、調整するということも検討してございます。</p>
委員長	<p>個別具体の事例で、色々なことが出てくるでしょうね。場合によっては、泊まりがけで来てもらわなければともありますよね。</p>
委員	<p>臨時開催で、夜の時間での開催もあるかもしれないですね。</p>
子ども政策課長	<p>場合によっては、そういったことも検討しなければならないかと思っております。</p>
委員長	<p>ちなみに、乳児院はどのような手立てを考えておりますか。</p>
子ども政策課長	<p>基本的には、区が措置をした子どもになりますので、フロー図に沿った対応になるかと思います。</p>

委員長	子どもからの発信は難しいので、保護者からの発信になるかと思いますので、そこも難しいですね。子どもの不服申し立てとも被るので、その辺の整理をする部会は、どこになりますかね。
子ども政策課長	権利擁護部会になります。
委員長	この辺りについては、共通の案件でもあるので、社会的養育推進計画策定検討部会の中で議論していただいてもよろしいかと思います。
子ども政策課長	委員長がおっしゃるとおり、計画を作っていく中で、申立てに関することも当然入ってきますので、あわせて検討させていただければと思います。
委員	措置をされている子どもや一時保護中の子どもからの申立てというのは、できなくはないと思いますし、子どもの要求がどこまでかを審議会で審議することがございます。私が気になりますのは、措置されなかった子どもや措置解除された子どもも対象になりますが、その子どもたちからどんな風に声を拾う経路になっているのかをもうちょっと説明をしていただければと思います。
子ども政策課長	委員がおっしゃられたとおり、申立て制度の対象には、措置等されなかった子ども、措置等解除された子どもも含んでおります。そのため、子どもに対しての事前の説明が大変重要になってくるかと思っています。また、アドボケイトさんとの関わりであるとか、直接どこへ連絡すべきかといった連絡先を子どもたちにいかに周知していくかが大事なかなと思っています。
委員	本人からの申立てが大事な部分かなと思いますので、これが本当にスムーズにできるような制度になるといいなと思っています。是非、困っている子どもが声をあげられるようなシステムにしていきたいと思います。
子ども政策課長	ありがとうございます。
委員長	「一時保護をされるのが嫌だ」という申立てのほかにも、「まだ家に帰りたくない」というものもあるかもしれないですね。児童相談所長を経験された方が何人かいらっしゃいますが、色々な事例が思い浮かぶかと思いますが、いかがでしょうか。
委員	色々なところで子どもの意見を聴いてきて、「言うは易く行うは難し」だと重々わかって申し上げます。先程、委員がおっしゃっていたことは、社会的養護の下にある子どもたちだけではなくて、子どもの権利擁護を小学校などの協力を得て、まずは普遍的に理解してもらい、子どもたちに自分たち意見表明権があるということをわかってもらうことが前提だろうと思われまふ。これをなくして、困ったときだけ意見を言っても、それは無理なことであり、子どもたちは簡単に意見を言えません。子どもの権利擁護を勉強したときに、わがままという概念を捨てなさいとありました。大人側のわがままという感覚でいたら、子どもの本当の思いを聴くことはできないと。子どもの意見は、すべて「我がまま」であり、自分の意見を言っているのだから、それを尊重しなさいと。先程、委員長がご指摘になった「帰りたくない」という意見、これをもっと尊重すべきだと思っています。どうしても、子どもの権利は、従来の我々の仕組みの中で、受動的権利擁護、先程、乳児院の子どもたちの話もありましたが、大人が責任を持って考えるという体制の下で、我々はずっと仕事をしてきています。そのため、能動的権利擁護の整備がとても遅れているなと感じています。他県ですが、子どもの意見を聴いたときに、「帰りたくない」と子どもが言っているの、そここのところは尊重するようにという意見書を付けて、裁判所の方に一時保護の延長であるとか、施設利用をお願いした経緯があります。ただ、そここのところで、十分な議論を尽くさなければいけないのが、子どもが自分

	<p>の置かれている状況や自分をどう大切にするかということを理解して判断することを、子どもは成長の途中にありますから、子どもの主体性だけを尊重して、子どもの声だけを聴いていると、その判断を間違ってしまう。そのため、意見を聴いて判断する側のトレーニングが必要だろうと思うし、議論を尽くしていくことが必要だと思います。実際に子どもたちの声を聴いて判断するときに、意見は割れます。「嫌だ」と言った子どもの声を尊重する場合と、「嫌だ」と言った子どもの声を十二分に判断したうえで、そうではない方向に結論付けることもあります。これもアドボケイトなのだろうと思われます。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。大変重要なお指摘だと思います。意見を聴いた後に、大人側がどういう判断をしたのか。また、それをきちんと説明できる「アカウンタビリティ（説明責任）」を果たせるだけの準備をしたのか。そこは問われるところになると思います。我々だって、昨日と今日とで考え方が違うことがよくありますよね。「帰りたくない」と思っている、翌日になったら、「帰りたい」と思うこともあるかもしれません。そういう揺れる気持ちだから、他の状況も勘案して、「帰るべき」「帰らないべき」という判断をしたということを説明できるようにしておくことも必要かなと思います。説明しても納得できないことを前提にして、また、議論が進んでいくことになるのでしょうか。子どもと伴走し続けるというのは、そういうことかもしれないですね。他いかがでしょうか。</p>
委員	<p>このフロー図を見て、とても複雑だなと思いました。子どもたちにどういう風に周知したら、使いたいと思ってくれるのかなと思いながら見ていました。まず、相談の受付から子どもに結果が報告されるまで、大体どのくらいの時間がかかるのでしょうか。また、その間、児童相談所の手続きは継続するという事になっているので、この審議結果を待たずに、子どもが言っている意見と違う措置がされる可能性があるという中で、子どもがせっかく意見を言ったのにも関わらず、大人に全然聞いてもらえないとがっかりするような制度にならないような工夫が必要だなと思いました。</p>
委員長	<p>とても大切なことですね。せっかく意見を言っているのですからね。他いかがでしょうか。ちなみに、こういうフロー図を考えていることについて、子どもの意見を聴くチャンスはありましたか。</p>
子ども政策課長	<p>このフロー図は、東京都のフロー図を参考に作成しております。また、東京都は昨年度のうちに、このフロー図を周知し、取組を進めているところでございます。そのため、板橋区として、そういう機会を持っているわけではありません。</p>
委員	<p>子どもアドボケイトをされる支援員というのは、どういう方が対象になっているのでしょうか。要件等は記載されていますが、幅広くてわかりにくい気がするのですが、自発的に研修を受けた方をお願いをしているのでしょうか。</p>
子ども政策課長	<p>ありがとうございます。私がちょっと説明を省いてしまったのですが、資料5の4ページのところに、支援員の要件が記載されております。区としては、こういうことができる事業者さんを公募しています。その結果、こちらに記載のある「一般社団法人子どもの声からはじめよう」に事業委託をしております。板橋区の方では、毎週土曜日に一時保護所に5人くらいのアドボケイトさんがいらっしゃって、子どもたちと交流し、子どもから意見表明があれば、意見を聴いていただくことを始めているところでございます。</p>
委員長	<p>アドボケイトの数は、どのくらいになりますか。</p>
子ども政策課長	<p>権利擁護調査員は、弁護士と社会福祉士の2名になりますが、アドボケイトの方は、</p>

委員	<p>事業委託をしておりますので、その法人さんの中で毎週5人くらいのアドボケイトさんが一時保護所に来て、声を聴いてくださっているところでございます。</p> <p>この件は、とても大事な部分だと思います。何人かの子どもたちが親に殺されたケースがあって、子どもは声を出していたけれども、それを受け止められなかったというところがあったと思います。そのときに、地域の皆さんも「自分たちは何ができたか」「何か自分たちもやってあげられなかったか」とおっしゃっていたと記憶しております。子どもの声を聴くという中に、そういった地域の皆さんのシステムを入れることも考えていただけるといいのかなと思いました。特に民生委員や児童委員といった役割を持った方たちの活用がもう少しあるといいかなと思っております。子どもの声にどう結び付けるかということはあると思いますが、そういう方たちの支援によって、子どもも自分の意見が言えるということになればと思います。直接はなかなか言えないと思いますし、一つの輪の中に、地域の皆さんの仕組みを入れていくというのも大事なことなのかなと思います。それから、私どもの施設においても、子どもを親の元に帰すかどうか、子どもとしても本当は帰りたいけれども帰らないといったジレンマの中で、それをどう対応するかということが、日々ございます。子どもの声をどこまで聴いていただけるかになりますが、施設は子どもをみている側ですが、児童相談所は親の立場も考えなければいけないという中で、日々拮抗しております。その辺も子どもの声を聴くという方向にシフトするということですが、もう少し明確になるといいかなと思っております。</p>
委員長	<p>他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、この事項についての議論は、ここで終わらせていただきます。続きまして、報告事項（２）「令和6年6月における部会の開催状況について」に移らせていただきます。各部長より順番にご報告をいただき、ご意見、ご質問については、全体の報告が終わった後にまとめて伺うということをお願いいたします。なお、死亡・重大事例等検証部会につきましては、6月までの開催実績はございませんでしたので、残りの3つについて、ご報告をいただきたいと思います。それでは、里親部会の坂井部長からお願いいたします。</p>
坂井委員	<p>里親部会、部会長の坂井です。「令和6年度里親部会の開催状況について」報告させていただきます。資料6をご覧ください。里親部会の所掌事項は、項番1のとおり、区が里親を認定する際に、区から諮問を受けて審議し、その結果を答申することとございます。項番2の開催状況ですが、令和6年度の里親部会につきましては、5月31日に1回開催したところでございます。次に審議件数になりますが、区から諮問を受けた件数は、合計4件となります。養子縁組を目的とせず、子どもを一定期間養育する「養育家庭」が2件、専門的なケアを必要とする子どもを一定期間養育する「専門養育家庭」が0件、祖父母などの親族が子どもを養育する「親族里親」が0件、養子縁組を目的として、子どもを養育する「養子縁組里親」が3件となっております。なお、板橋区におきましては、「養子縁組里親」と「養育家庭」の二重登録を認める運用をしており、二重登録の際はそれぞれで1件として計上していることであります。審議いたしました4件すべて、里親としての認定が適格であるとの審議結果となっております。審議にあたりましては、学識経験者、医師、弁護士、児童福祉施設の施設長といった委員がそれぞれの専門性に基づきまして、申請に対する動機や委託児童の養育についての考え方等について確認をしながら、子どもが委託されるにあたっての留意点などのご意見をいただいて、このような審議結果となっております。</p> <p>里親と子どもの適切なマッチングのためには、里親家庭を増やすということが重要になってくるわけですが、板橋区では、区立小中学校へ通う児童の保護者へのチラシ配布や区民まつり、わくわくフェスタへの出展など、フォスタリング機関とも連携しながら広報啓発活動を積極的に行っていくとしております。里親制度に関する広報・啓発は、里親を増やすためだけではなく、制度を知ってもらうことで、里親とそこで暮らす子どもにとって生活しやすい環境になっていくことから重要であ</p>

	<p>と考えております。子どもにとって適切な養育環境を提供できるよう、今後も引き続き慎重な審議に努めてまいります。報告は以上になります。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。それでは、栗原委員より、子どもの権利擁護部会について、ご報告をお願いいたします。</p>
栗原委員	<p>子どもの権利擁護部会、部会長の栗原です。資料7「令和6年度子どもの権利擁護部会の開催状況について」をご覧ください。子どもの権利擁護部会の所掌事項は、項番1のとおり、児童又はその保護者の意向が児童相談所の措置と一致しない場合などに、区から諮問を受けて審議し、その結果を答申する部会でございます。項番2の開催状況ですが、今年度は、5月20日に1回開催したところでございます。当初は、月1回の開催予定でしたが、審議する事例がないということで、2回流会となっております。次に審議件数は、1件となっております。先程、資料5において、事務局よりご報告いただいた「児童福祉審議会への子ども本人からの申立て」につきまして、議論を行いまして、基本的には事務局の提案に合わせて対応を進めていただくことになりました。資料の裏面をご覧ください。部会の所掌事項にもあるとおり、被措置児童等虐待に係る措置について報告を受けた際、その措置について意見を述べるということになっておりますが、こちらに関する案件はございませんでした。</p> <p>今後は子ども本人が児童相談所の措置内容等に不服がある場合、審議会に申立てができるようになります。まずは、子ども自身が権利や相談方法について知ることが必要であり、また、周囲の大人たちも意見表明の重要性を理解し、子どもの意見を聴く姿勢を身につけることが重要だと思われます。子どもの最善の利益を確保するためには、権利や権利擁護の仕組みについて、様々な機会を通じて周知啓発を行うとともに、子どもが安心して意見を述べることができる環境を整えていただければと思っております。また、部会としても引き続き丁寧な審議を行ってまいります。以上が部会の報告でございます。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。それでは、保育部会の堀部会長からお願いいたします。</p>
堀委員	<p>保育部会、部会長の堀でございます。保育部会からは、「令和5年度保育部会の開催状況について」ご報告させていただきます。資料8をご覧ください。保育部会の所掌事項は、項番1のとおり、区が保育所の認可等をする際に、区から諮問を受けて審議し、その結果を答申する部会でございます。項番2の開催状況ですが、(1)のとおり、昨年度は、2月に第1回保育部会を開催いたしまして、令和5年度第1回本委員会後の3月25日に第2回保育部会を開催いたしました。次に審議件数ですが、(2)のとおり、区から諮問を受けた件数は、合計6件となります。保育所の整備を着手する前に認可基準への適合状況について確認する「計画承認」が4件、また、開所前に再度認可基準への適合状況を確認する「認可」が2件となっております。保育部会では、事務局から施設の図面や公認会計士による財務状況等の分析に基づく説明を受けまして、子どもたちが使いやすい設計になっているか、安全上問題となる点がないかなど、部会で審議を行った結果、すべての案件について適当であると答申いたしました。裏面をご覧ください。なお、部会の所掌事項に、児童福祉施設や認可外保育施設、幼保連携型認定こども園に対する事業停止命令等がございますが、こちらに関する案件はございませんでした。審議にあたりましては、学識経験者、弁護士、公認会計士、建築士といった委員がそれぞれの専門性に基づき、児童及び職員の動線や避難経路等のハード面のほか、児童の安全確保や職員体制等の運用面に関する観点から、色々と意見を述べさせていただき、このような審議結果となっております。</p> <p>板橋区では、施設整備や保育定員の拡大を行うなど、待機児童対策に取り組み、令和4年4月に待機児童ゼロになりましたが、入所者数は令和3年4月をピークに減少に転じております。定員に空きがほとんどない地域がある一方で、一部の保育所</p>

	<p>では欠員が生じておりまして、運営の継続が困難となっている事態や、保育士の確保が難しく、利用定員を下げて対応するなど新たな課題も発生しております。そのため、今後は潜在的ニーズも含めた保育の利用意向を適切に把握するとともに、地域の保育施設の保育需要や供給との兼ね合いも踏まえながら、それを反映した受け皿整備を進めることが重要になってくるかと思います。そして、整備を進めるにあたりましては、施設・設備の安全性を確保するとともに、保育所を地域の子どものための子育て拠点として機能強化することや、多様なニーズを抱えた子どもや保護者への支援等にも取り組んでいく必要があると考えております。子どもの安全性に配慮した空間や設備を整えることは、保護者の安心に繋がるだけでなく、保育士の業務の軽減にも繋がり、より質の高い保育が実施できるようにもなります。子どもたちが健やかで安全・安心に成長できる環境を提供できるよう、保育部会としても引き続き丁寧な審議を行ってまいります。報告は以上でございます。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。3部会の報告について、ご意見、ご質問等ありますでしょうか。</p> <p>(質問なし)</p> <p>続きまして、報告事項(3)「令和5年度板橋区子ども家庭総合支援センターの運営状況について」、所管課から報告をお願いいたします。</p>
子ども家庭総合支援センター所長	<p>それでは、資料9により、「令和5年度板橋区子ども家庭総合支援センターの運営状況について」を報告させていただきます。項番1「子ども家庭総合支援センターの相談受付状況」でございます。開設以来、当センターは、子ども家庭支援センターと児童相談所の二つの機能を一つの建物で一体的に運営することの特徴の一つとしていただいております。(1)「相談種類別受付件数」をご覧ください。子ども家庭支援センター機能を担う支援課が1,845件、児童相談所機能を担う援助課が2,064件と、合わせて3,909件の相談を受け、対応してまいりました。一番上の児童虐待相談は、基本的には、援助課で対応しておりますが、介入よりも支援的対応が適当と考えられるケースにつきましては、支援課で対応しております。虐待相談件数は、前年度と比較して、センター全体では若干減っているのに対しまして、虐待を除く養護相談につきましては、1,488件と大幅に増加しております。これにつきましては、関係機関が心配なケースをできるだけ早く、積極的に相談していただいていることが、一つの理由ではないかと推測しております。ただ、開設後2年だけの数字になりますので、もう少し長いスパンで動向を見てみないと、評価は難しいと考えております。続きまして、2ページの(2)「相談経路別相談受付件数」をご覧ください。支援課では家族・親戚からの相談が、援助課では警察からの相談が多く、センター全体としましても、この二者からの相談が多くなっております。続いて、(3)「一時保護(委託)の状況」をご覧ください。一時保護所に一時保護した子どもが183人、一時保護委託した子どもが67人と、合わせて1年間で250人のお子さんを一時保護または一時保護委託をして、子どもの安全・安心を図ってまいりました。一時保護委託先として多いのが、医療機関や他区の一時保護所、乳児院となっております。</p> <p>続いて、3ページをご覧ください。項番2「社会的養育の状況について」でございます。(1)「施設養育」でございますが、板橋区の児童相談所が措置等を行い、施設に入所しているお子さんが180人いらっしゃいます。その施設の内訳につきましては、表のとおりでございます。(2)「家庭養育」につきましては、里親委託しているお子さんが22人となっております。(3)「板橋区における家庭養育の状況」につきましては、「養育家庭」が28家庭あり、合わせて53家庭が板橋区の里親として登録されている状況でございます。</p> <p>続いて、項番3「一時保護所の入所状況について」でございます。(1)「在籍児童数」でございますが、各月末における入所児童数を計上しております。定員30名をオーバーして入所することが、時々ある状況でございますが、一日当たりの平均在</p>

	<p>籍児童数は26名、平均入所率が87%、一人当たりの平均保護日数が47日でした。続いて、4ページをご覧ください。(2)「新規入所児童数」でございますが、1年間で202人の児童を受け入れて、支援をしてまいりました。この202人の中には、東京都と他区からの一時保護委託19人が含まれています。②「主訴別・新規入所児童数」、③「乳幼児及び学校種別・新規入所児童数」、(3)「一時保護解除の状況」につきましては、記載のとおりでございます。</p> <p>続いて、項番4「家庭裁判所への申立ケース等について」でございますが、この表につきましては、事前に送付させていただいた数字に誤りがあり、本日配付した資料に差し替えさせていただいております。誠に申し訳ございません。第28条の施設入所措置等による承認件数の4件は、令和4年度に申立てを行い、令和5年度に承認をされたものでございます。令和5年度に申立てを行った3件については、1件は取り下げ、今年度になって承認されたものが1件、審査中のものが1件となっております。</p> <p>続いて、5ページをご覧ください。項番5「要保護児童対策地域協議会について」です。要保護児童対策地域協議会の運営業務を専門に行う地域連携推進係を中心に、関係機関との連携強化を図っているところでございます。代表者会議等のそれぞれ開催状況は、表のとおりでございますが、地域連携推進係の職員が約370機関を訪問し、情報の共有や支援状況の確認を行うとともに、新たなケースの発掘を行うアウトリーチの取組みを行い、予防や未然防止に努めてきたところでございます。最後に項番6「子どもの権利擁護の取組みについて」です。この取組みは、子ども政策課が所管しております。(1)「子どもの意見表明支援(子どもアドボケイト)」の①「定期訪問アドボカシー」は、子どもアドボケイトが隔週土曜日に一時保護所に訪問し、子どもから意見聴取等を行っております。また、②「個別訪問アドボカシー」の取組みは、子どもから意見表明の申出があった場合に、子どもアドボケイトが施設等を訪問し、子どもから意見を聴取するというものでございます。次の6ページをご覧くださいますと、その実績が記載されております。「定期訪問アドボカシー」は、延べ187人のアドボケイトが48件の意見表明を受けるとともに、114件の面談を実施しております。なお、「個別訪問アドボカシー」の実績はございませんでした。それから、(2)「被措置児童等虐待の調査」につきましては、施設や里親に措置されている子どもに関する施設内虐待等の通告や届出があった場合に、子どもの権利擁護調査員が子どもや職員等から聴き取り調査を行うものでございます。なお、昨年度の実績はございませんでした。</p> <p>簡単ではございますが、センターの運営状況についての報告は、以上でございます。なお、本日は、お時間をいただきまして、昨年度開催されました「日本子ども虐待防止学会」で発表させていただいた当センターの一時保護所の運営について、この場をお借りして報告をさせていただければと思います。板橋区の一時保護所の運営について、ご理解いただけるのではないかと考えております。一時保護所につきましては、今年度から国が定めた「一時保護施設の設備及び運営に関する基準」により、運営しているところでございます。子どもにとって、「ここにはもう二度と来たくない」と言われるような存在ではなく、「困ったときには、またここに来よう」と思ってもらえるような一時保護施設を目指して取り組んでいるところでございます。それでは、学会で発表をした保護係長の高島より、報告をさせていただきます。</p> <p>(スクリーンを使って説明)</p>
委員長	<p>ありがとうございます。それでは、板橋区子ども家庭総合支援センターの運営状況と一時保護所についての報告をいただきましたが、ご意見、ご質問がございましたら、お願いいたします。</p>
委員	<p>保護所の説明の中で、夜勤体制がかなり手厚くなっている印象でしたが、職員一人当たりの夜勤回数は、月何回くらいでしょうか。</p>
保護課保護係長	<p>保護所としましては、夜勤回数は週1回を上限に、できれば月3回くらいを理想に</p>

	<p>体制を組んでおります。現在、女子ユニットは、夜勤2名で組んでおります。職員15名と多めにしているのですが、女子ユニットで多いと月5回、平均すると月4回となっております。他のユニットは、月3回、多くて月4回という形で運営をしています。</p>
委員	<p>状況はわかりました。児童養護施設は、夜勤ではなく、宿直になりますが、週1回の宿直について、労働基準監督署からだいぶ指導が入っているという話もございます。そのため、よく様子を見ながら、お願いしたいなと思います。</p>
委員	<p>2点ございます。まずは、センターの運営状況の5ページのところで、要保護児童対策地域協議会を通じてのアウトリーチ、他機関との連携というところが、どうしても基本的に想定されやすい子どもになっておりますが、現在、地域福祉の方で、生活困窮者自立支援事業というのがあります。これは、社会福祉協議会とか、東京都の場合にはNPOが受託して担当していることが多いかと思いますが、こちらとも連携していただくと、経済的な要因で支援を必要としているご家庭の中で、ネグレクト等の課題に直面しているお子さんたちの情報というのが入ってくると思います。もう少し、連携先を幅広くしていただけると、よろしいかと思いますし、これが区市町村で児童相談所を持つメリットなのだと思います。県単位だと、どうしても、ここまできめ細やかな連携ができないので、区内にある連携先、色々なところがあると思いますので、子ども家庭福祉領域に捉われずに、子どもたちの情報を掴めそうなところと繋がっていただいて、アウトリーチをかけていただければと思います。それと、先程、委員がおっしゃっていた地域との連携というところとも関連するのですが、一時保護所について、非常に丁寧な報告がされて良かったなと思いますが、そこでユニットタイプのデメリットとして、9ページで「子ども自身、お互いの言動が目につきやすく、相手の行動に影響されてしまう」、10ページで「気の合わない子どもが同じユニットだと、ユニット全体の空気が悪くなってしまう」という記載がございました。児童相談所の仕事をさせていただいて気になるのが、職名で残っているのではないのですが、「ケースワーク」という言葉は、社会福祉の関係の人間は使わない言葉になっており、ミクロレベルの支援、「ソーシャルワーク」という言い方をしております。その中で、消えつつあって大事にしなければいけないのが、集団への支援技術になります。正にここにでてきている課題というのは、昔、「グループワーク」と言われていたものになります。ユニットケアには、集団に介入する力というのが必要不可欠になっております。ハードが変わって、こういうことが良くなったというだけではなく、その特性に応じた支援方法、ソーシャルワークとしてのスキルアップというところのサポートもしていけると、職員の方たちの働きやすさというところに繋がり、大人が安心してゆとりを持っていれば、子どもたちの生活環境も落ち着いてくると思います。せっかく職員の方たちが、こういうことに気づかれていますので、是非ここを拾い上げて、単に居室を変えるのではなく、集団力動への介入ですよね。あるいは、集団力動を活用した関係調整、そこで子どもたちが学ぶチャンスにもなっていくので、是非ここを活用していただければと思います。そういう意味では、先程のアウトリーチや社会資源の活用、そして、要保護児童対策地域協議会といったネットワークをどのように運用していくのか。また、家庭復帰支援は、「ファミリーソーシャルワーク」になります。残念ながら、今回のセンターの運営状況報告の中には、ソフトの部分のソーシャルワークをどのように充実したのかという報告がほぼほぼ見られませんでした。件数はわかりましたが、そこがとても大事だと思いますので、今後報告をされるときには、その支援内容に踏み込んだ報告をいただければと思います。以上です。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。そうしますと、「その他」を除いて、用意された議事・報告が終わることになります。他にご発言がなければ、事務局の方にマイクをお返ししたいと思います。</p>

<p>子ども政策課長</p>	<p>ご審議ありがとうございました。最後に私の方から、今後の日程について、ご連絡をさせていただきます。今後は部会ごとの開催となりまして、委員の皆様全員にお集まりいただく本委員会は、来年1月頃を予定しております。次回は、本日諮問させていただいた「板橋区社会的養育推進計画の策定について」の答申を予定してございますので、よろしくお願いしたいと思います。また、今年度各部会で審議した内容についても、本日と同じように部会ごとにご報告いただく予定でございます。なお、各部会及び本委員会の開催につきましては、改めて日程調整させていただいて、事務局からご案内をいたします。最後に冒頭でも申し上げましたが、本日の議事録につきましては、内容のご確認をいただくために、後日、委員の皆様にはメールを送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。事務局からは、以上でございます。</p>
<p>委員長</p>	<p>本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。臨時部会においては、こういったご意見を活かしていただくように、事務局の方でもご協力をお願いしたいと思います。それでは、板橋区児童福祉審議会第1回本委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>